

景況レポート

1月

1月の県内景況は、「売上高」「収益状況」等、5項目のDI値が改善するものの低調に推移。寒波や積雪等の天候不順が各方面に影響を及ぼした。

情報連絡員による平成30年1月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は13.0%（前月比+3.2）となっており、「横這い」は31.5%（同-7.7）、「低調」とするところが55.5%（同+4.5）、業界全体の「景況感DI」は-42.6%（同-1.4）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「雇用人員」の5項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、「快晴」または「晴れ」の業界はなく、食料品製造業、鉄工機械製造業、卸売業、サービス業、建設業が「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、13.0%（前月比+1.2）と増加しております（好転の回答0件、やや好転の回答7件）（製造業2、非製造業5）。また、変わらないも、63.0%（前月比+14.0）と増加しております。一方、やや悪化、悪化の見込みは、24.0%（前月比-15.2）と減少しております。

平成30年1月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率90.0%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	-50.00	0.00	0.00	0.00	-50.00	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-16.67	-33.33	-16.67
繊維製品製造	33.33	0.00	-33.33	33.33	33.33	33.33	33.33	0.00	0.00	-33.33	33.33	-33.33
木材木製品製造	-50.00	-50.00	25.00	25.00	-25.00	-25.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-50.00	-50.00
鉄工機械製造	0.00	66.67	0.00	-33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-33.33	0.00	0.00
その他の製造	-33.33	-33.33	16.67	16.67	0.00	0.00	0.00	-16.67	0.00	16.67	-16.67	-33.33
卸売業	-50.00	0.00	0.00	0.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	0.00	-25.00	-25.00	0.00
小売業	-50.00	-25.00	37.50	25.00	-25.00	-25.00	-25.00	-25.00	-12.50	-12.50	-50.00	-62.50
商店街	-60.00	-60.00	-20.00	0.00	-40.00	-60.00	-40.00	-60.00	0.00	0.00	-20.00	-60.00
サービス業	-57.14	-42.86	-14.29	0.00	-42.86	-14.29	-14.29	-14.29	-28.57	-14.29	-42.86	-28.57
建設業	-20.00	-80.00	0.00	0.00	20.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	20.00	-20.00
運輸業	-100.00	-66.67	0.00	0.00	-66.67	-66.67	-33.33	-66.67	-33.33	-66.67	-66.67	-66.67

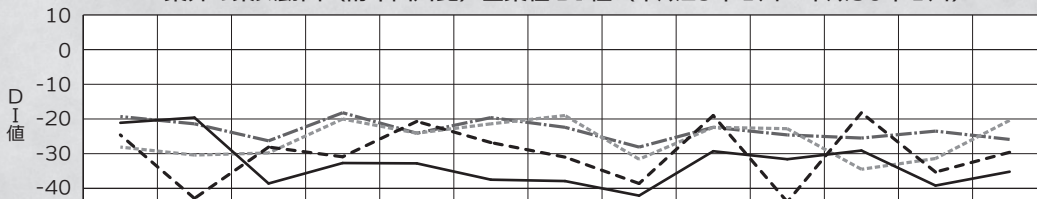
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成29年1月～平成30年1月）



	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月	平成29年4月	平成29年5月	平成29年6月	平成29年7月	平成29年8月	平成29年9月	平成29年10月	平成29年11月	平成29年12月	平成30年1月
業界の景況	-21.1	-19.6	-38.6	-32.7	-32.8	-37.5	-37.9	-42.1	-29.3	-31.6	-29.1	-39.2	-35.2
売上高	-24.6	-42.9	-28.1	-30.9	-20.7	-26.8	-31.0	-38.6	-19.0	-43.9	-18.2	-35.3	-29.6
収益状況	-28.1	-30.4	-29.8	-20.0	-24.1	-21.4	-19.0	-31.6	-22.4	-22.8	-34.5	-31.4	-20.4
資金繰り	-19.3	-21.4	-26.3	-18.2	-24.1	-19.6	-22.4	-28.1	-22.4	-24.6	-25.5	-23.5	-25.9

食料品製造業

<漬物>

生野菜が極端に高く、仕入も高い。売れ行きは好調であるが、全く利益が取れず出荷できない製品も多い。大変厳しい状況にある。白菜等も中国から輸入がまった。

<味噌醤油>

味噌の主原料加工用米は価格高騰が避けられないという情報が出ている。また、飼料用米作付に対する生産者への助成金が優遇されている現状において、加工用米の作付への不安感が出ている。味噌の出荷量減少と製造コストアップなど厳しい状況は続いている。

<菓子>

年末年始の天候不順の影響か、売上が大きく減少。飴の販売が縮小していく中、組合の存続も一層厳しい状況である。

<酒造>

特定名称酒の伸びが好調である。復興支援で地元の米を使用し、地元特産の日本酒を製造する市町村が増えてきた。地域活性化と県産日本酒の発信に期待したい。

<食品団地>

例年に比べ、寒さによる影響が続き季節商品は順調であるが、原材料確保が厳しい状況にある。今後も原油価格と原材料の高騰等で、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。

繊維工業

<縫製品>

昨年は、一番の売り上げを占める春夏物の受注が思わしくなく、業界各社で大変苦戦したが、今年は今のところ順調な受注状況となっている。

木材・木製品製造業

<製材業>

原木について、今冬は天候がよく、作業が順調で出材が増えている。しかし、スギの出材は増えているが、カラマツは少ない状態が続いている。また、製材品について、地元需要は年末に一定量の引き合いがあったため、年明けは需要が落ち着いている。

<外材輸入>

春先に向け不需求期であることと、現地価格の高騰により製材品の荷動きは鈍化している。

印刷

<印刷業>

例年1、2月は比較的に仕事が薄い時期となるが、今年は各社とも前年割れの実績となる見通しが多く見受けられる。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上数量	前月比	約25%減
2. "	昨年同月比	約10%減
3. 本年度売上数量	昨年対比	約10%減

4 現状・現状

年始休暇と積雪により工事現場等への納入が少なかった。

<生コン>

平成30年1月の組合員生コン出荷数量は、103,767m³と対前年同月比-4.0%。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比+6.4%、官公需が-10.3%であった。

○民需の動向

対前年同月比 +6.4%

対前年同月比増加地区

県北地区：+11.4% 市内病院、上保原ショッピングセンター、米飯工場新築工事等

県中地区：+28.0% マンション新築工事、印刷工場新築工事等

白河地区：+5.9% 小野町ソーラー発電所建設工事等

いわき地区：+49.8% 小名浜ショッピングモール建設工事、スパリゾートハワイアンズ施設2期工事等

対前年同月比減少地区

相双地区：-28.7% 広野火発石炭貯蔵設備建築工事等

会津地区：-28.8% 商工信用組合滝沢支店新築工事等

○官公需の動向

対前年同月比 -10.3%

対前年同月比増加地区 なし

対前年同月比減少地区

県北地区：-8.3% 福島新斎場整備事業、伊達市役所本庁舎増築工事等

県中地区：-18.6% 東部幹線橋梁下部工事、須賀川市ゴミ処理施設工事等

白河地区：-41.1% 公共土木災害復旧工事等

いわき地区：-18.8% 港湾災害復旧、市内病院新築工事等

相双地区：-1.7% ふたば未来学園体育施設棟、海岸復旧工事等

会津地区：-5.4% 会津美里町役場新築工事等

一般機器

<各種プラント機器>

プラント設備関連業界は、売上が前月比で先月同様の24%減となるも、前年同月比においては19%増と、3ヶ月連続での増加を見せた。累計においても、前年比96%と徐々に回復してきている。

その他の製造業

<漆器>

街を歩く観光客も少なく賑わいのない正月であった。ネット通販が着実に伸びているのがせめてもの救い。

卸売業

<卸売業>

年明けからの寒さが影響し、季節商材（特に生活用品）の売上は堅調。一方で、灯油等の石油製品が値上

がり基調。人手不足は現時点でも変わっていない。売り手市場の影響もあり、採用してもすぐにやめてしまうケースも散見される。復興需要が薄らぐ中で、売上が前年比割れを起こしているという話をしばしば耳にする。今後、売上と収益を如何にして確保するかが課題となる。

<再生資源>

1月は異常寒波の影響で、古紙の市中発生はさらに低下した。また中国の古紙輸入枠問題により、輸出数量は依然低調である。鉄スクラップは、堅調で価格も高値で安定している。

<米麦事業>

米穀の販売単価は昨年より上り、売上高は増えた。

小 売 業

<共同店舗>

(〇ショッピングセンター)

飲食関係の売上は、前年比で上回ったものの、前月比では下回った。物販の売上は、前年比・前月比どちらも下回った。次月、つるし雛めぐりで来店客数増を期待、売上に繋げていきたい。

<石油>

年明け後の元売仕切も上昇し、小売価格も上昇した。特に例年のない寒波により灯油については今後も高値で推移すると思われる。一方、ガソリンについても2年ぶりの高値となり、原油価格の高騰からも同様に高値で推移すると思われる。

<水産物>

例年正月明けは静かになってしまうが、今年は天候の影響もあるのか、全体的に低調が続いており、回復の兆しが見えない月となった。

<青果>

先月から続く単価の高騰は依然として継続している。また、都心部の積雪の影響もあり入荷数も減少した。例年春までは取扱が減少するが、少しでも取扱が増加することに期待したい。

<家電>

部分的に良いが全体的に横ばい又は悪化の状況。量販店も厳しい状況にあり、ノルマ達成のため店頭での安売りが目立つ。

商 店 街

<福島市>

12月と比較すると良くなる条件は何も無い。寒さ・大雪・道路舗装工事と通りを歩くには好条件とは言えない環境であった。工事の影響か、人の流れが変化してしまい、工事終了後にどのように戻るのか、戻らず更に変化していくのか、不安である。4月になれば花見山観光のお客も増え、整備された道路(歩道)をどうアピールしていくか検討し、上手く活かしていかなければならない。

<郡山市>

今月は寒波と積雪の影響もあり非常に厳しい月となった。正月休みが短かったことも影響したよう。

<南相馬市>

今月は、中心商店街のイベントも少なく低調ムードであった。唯一、栄町ナイトばざーが実施され、当日は行列のできる賑わいがあった。

<いわき市>

寒い日が続いた1月、冬物・防寒物の動きは良いようだが、あまりの寒さに人が悪かった。中旬には積雪もあり、商店街へのダメージは大きかった。加えて、14年間続いたチャリティセールも今年から無くなったため月末の週末は閑散としていた。飲食も含め、低調な1月であった。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

例年のない寒さと積雪により日帰り観光客は低調のままである。1月から3月にかけて平日対応の低価格宿泊プランの販売を開始し、宿泊入込の増加を図っている。ただ、どこの温泉地、旅館でも同程度の価格設定で販売促進を図っていることから、他とひと味違っておもてなし、サービスといった付加価値を強調しなければならない。また、宿泊者の属性や情報入手媒体等のデータ分析を通じて、同期間の次年度への対応も今から検討しておかなければならない。誤ったターゲットへの宣伝情報提供等を改善し、効果ある広告宣伝を展開するべく人材育成を図っている。

<理容業>

仕事始めの4、5日は暮れに来店出来なかったお客様が来店し忙しかったが、その後は例年通りの状態。成人式を迎えるお客様も少々いたが以前のような。前半は比較的天候にも恵まれ出しは良かったが、後半は寒波の影響からか昨年を下回る結果となった。寒さからお肌や髪を守るホットなメニューも用意しているが寒いと客足は止まる。

<美容業>

記録的な寒波に襲われたために消費者の来店予想を下回ってしまった。この時期は、東北地方で商売している者の宿命と思って経営しているが雪の影響を受けたサロンが目立ったようだ。車を多く利用するサロンの客層は影響が少なく、交通機関や徒歩等で利用するサロンの客層は影響を受けたと思われる社会背景が浮かび上がった。来月の挽回を期待したい。

<一般廃棄物収集運搬>

通常業務については前月同様の売上を見込んでいる。産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、しばらくは増加することはないと思われる。関東大手の産廃処理業者が進出してきた。地元事業者との連携について今後の展開が期待できる。雇用については各社で人材の確保に苦慮している。

建設業

<建設業>

(県南地区)

土木工事は増加傾向にあるが、規模の大きい工事は地元業者が受注できない傾向が続いている。民間建築工事は若干増加傾向であるが、公共建築工事は物件が少なく低迷している。

<管工事>

給水・排水設備申請とも前月比・前年同月累計対比で減少している。

<専門工事>

効求人倍率は5年以上、1倍以上を持続しているも

の、解消はされない。中通りでの除染もほぼ終わり、復興事業でのバブルも終息したにも関わらず、働き手がいない。

運 輸 業

<トラック団地>

(県北地区)

受注状況が悪化している中、燃料費も昨年比約10%

上昇しているため収益が減少傾向にある。

(県中地区)

ドライバーの労働環境が見直され、時間外労働を減らす動きが強まったため、給油所へのタンクローリーの配送に今までより日数を要するようになった。そのため、必要な時に入荷できなくなっており困っている。

<ハイヤータクシー>

寒波により外出する人が少なく、悪化傾向であった。